

平成27年度

目黒区学力調査と授業改善プラン

I 「目黒区学力調査」の概要

II 平成26年度「目黒区学力調査と授業改善プラン」の検証

III 「目黒区学力調査」等に基づく授業改善プラン

- ・本校の授業改善に向けた方策（学校全体）
- ・第1学年～第3学年

平成27年8月

目黒区立第八中学校

I 「目黒区学力調査」の概要

1 調査の趣旨

目黒区立小・中学校の児童・生徒に「学力調査」を実施し、児童・生徒の学習状況を組織的・継続的に調査・分析するとともに、各学校の指導法やカリキュラムの改善・充実を図り、学力の定着・向上を目指す。

なお、本調査は、目黒区立小学校の第2学年～第6学年の児童及び目黒区立中学校の全学年生徒を対象に実施された。（原則として、特別支援学級に在籍する児童・生徒は対象としない）

2 調査の内容

(1) 調査の対象学年及び対象生徒数（本校）

	1 年	2 年	3 年
対象数	71	76	99
実施数	69	74	97
受検率	97	97	98

(2) 調査内容と実施教科

① 学習指導要領に示された目標の達成状況（観点別学習状況）

② 生徒の学習に関する意識

1年 意識調査、国語、数学、社会、理科

2年 意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

3年 意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

(3) 実施日

平成27年4月16日（木）

Ⅱ 平成26年度「目黒区学力調査と授業改善プラン」の検証

(1) 成果

今年度の結果を分析すると、基礎的・基本的な力については、目標値に対して5教科すべてにおいて平均的な数値であった。基礎・基本を重視し、指導内容をできるだけ精選して指導した成果と考える。すべての教科において目標値を上回っていた。これは、数学科では小テストを始め、問題演習や繰り返し学習を徹底して行った成果と考えられる。また、国語科の少人数授業、数学科と英語科のチームティーチングなど、きめ細かな指導が効果的であった。また、全校で授業規律の確立や朝の読書に取り組んだ結果、落ち着いた雰囲気で授業が始められる習慣が身に付いてきたことも成果としてあげられる。

放課後学習教室、定期考查前の土曜学習教室なども定着し、生徒が前向きに学習に取り組む姿勢もうかがえるようになった

(2) 課題

どの教科も基礎的・基本的な学力については平均以上の数値であったが、思考力・判断力・表現力等、活用する力が身に付いていない教科があった。習得した知識を活用し、探求する力に課題があるといえる。一方的に教師が教えるのではなく、考える時間を確保したり、お互いに交流しあったりする時間を確保するなど、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等を育成する視点での授業改善が必要である。

また、学力の二極化もうかがえる。発展的な学習に進んで取り組む生徒もいれば、基礎・基本が定着しておらず、学習意欲を失っている生徒も見受けられるため、基礎・基本の定着を目指す。そのために、基本的な生活習慣を確立させ、授業に積極的に参加することができるよう、家庭との連携や全校体制での支援が必要である。

引き続き授業規律の確立、朝の読書等に全校で取り組み、学習意欲を高めていくことが課題である。

Ⅲ 目黒区学力調査等に基づく授業改善プラン

本校の授業改善に向けた方策

- ① 国語科、英語科において少人数授業を行い、きめ細かな指導に努める。繰り返し学習や調べ学習などを計画的に実施し、基礎・基本の定着を徹底する。少人数授業の成果を全教員で共有し、それぞれの授業に生かす。
- ② 各教科で「振り返りシート」を工夫し、一人一人の生徒の学習状況を把握し、つまずきの早期発見に努める。「振り返りシート」を活用し、生徒が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を組織的に行い、学習意欲の向上に努める。
- ③ 授業の中に、意識的に思考する時間を設ける。教師が一方的に授業を進めるのではなく、考える時間を必ず確保し、習得した知識を活用する授業に取り組む。その際、個別指導、グループ別指導、習熟の程度に応じた指導、興味・関心に応じた課題学習など多様な指導ができるよう工夫する。
- ④ 体験的な学習や問題解決的な学習を計画的に設定し、生徒が興味・関心をもって、自主的・自発的に学習に取り組む姿勢を育成する。行事などの特別活動や総合的な学習の時間との関連を図り、生きた学習となるように工夫する。
- ⑤ 校内研修等を通して、適正な評価・評定について研修を深める。生徒のよい点や進歩の状況を積極的に評価し、指導の工夫・改善につなげ、学習意欲の向上に生かす。
- ⑥ 授業規律の確立や朝の読書、校内の環境美化等に全校体制で取り組み、落ち着いた雰囲気で学習ができる環境づくりに努める。基本的な生活習慣や家庭での学習習慣の確立について、地域や家庭にも協力を依頼する。
- ⑦ 教師と生徒の信頼関係や生徒同士の良好な人間関係を育てる。そのために道徳授業や学級経営、生徒指導等の充実を図る。日常生活のあらゆる場面で生徒とふれあう機会を重視し、生徒理解に努める。
- ⑧ 学習規律定着のために、授業改善を目指し、落ち着いた雰囲気で学習に取り組めるように努める。

第八中学校 第1学年授業改善プラン

教科	区学力調査の結果等からみられる課題	授業改善の方策
国語	○話の内容の正確な聞き取り	○絞って聴く、聴いた事項を書き留めるという練習をする。 ・朗読や群読を通して、音への関心を高める。 ・短い情報を読み、メモの取り方を練習する。 ・初読の単元作品の音読を聞いた後、内容を穴埋めや正誤選択で確認をする。 ・他の発表や作品を聞き、意見と事実の区別をする。
社会	○事項などの基礎基本をしつかりおさえ、社会的事象に対する思考	○基礎基本の定着を行うために単元ごとにまとめの課題を設定する。 ○1つの授業の中で必ず1回は考えさせる課題を設定し、自分の考えをまとめる練習を行う。 ○簡単な思考問題から、応用の問題へつなげていけるような課題を設定し、習熟度に応じた課題になるよう工夫する。
数学	○小学校の学習内容の定着 ○関数と図形分野の知識理解 ○基礎基本が定着していない生徒への学習支援	○適宜、小学校の学習内容を復習とともに、トランプなど生徒の学習意欲を高める工夫を多く取り入れていく。また、1時間に3回以上机間指導を行い、個に応じたアドバイスの充実を図る。 ○特に関数、図形指導においては、ICT機器や視覚教材を活用し学習理解を図るとともに、筋道を立てて考えたり発表させたりする場面を意図的・計画的に増やし「言語活動の充実」を図る。 ○授業内における個に応じた学習支援、学び合い学習による学習支援、各テスト後の補充授業を実施する。
理科	○小学校の学習内容（知識理解）の定着 ○生物、地学分野の内容の定着	○小学校で学んだ内容を確認しながら授業をすすめる。 ・定着率が低い単元では演示実験や小テストを行うなどの振り返りをしてから中学校の内容に入る。 ○実験が少ない生物、地学分野の内容を定着率を上げるために実験観察を多く取り入れる。また、ビデオなどの映像を使い、内容の定着をはかる。
英語	○英単語のスペリングと発音の不一致	○授業内の本文 Oral introduction の際に難しい英単語の発音とスペリングの確認を繰り返し行う。加えて授業外でラジオ英会話などの視聴を課題にし、その利用により得た新出単語をノートに練習をさせる。また月一回はその練習ノートの確認を行い、指導・助言を行う。

第八中学校 第2学年授業改善プラン

教科	区学力調査の結果等からみられる課題	授業改善の方策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○文章の内容を正確にとらえ、その中から必要な情報を集める力 ○既習の漢字を読んだり書いたりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ○目的をもって評論や小説など内容、形態が異なる文章を読むだけでなく、書くことに関連させた活動を増やす。 ・「必要な情報を読み取る力」を付けるため、本や新聞、インターネット等を利用し、課題を通じて伝えたい事柄が明確に伝わるよう書く活動を意識的に取り入れる。 ○単元ごとや長期休業後など定期的にテストを実施。また授業では、辞書の活用や語彙力を付けるための活動を増やす。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の諸地域における基礎基本の定着 ○歴史的事項などの基礎基本の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ○国名や地名を定着させるために小テストを効果的に行い、単元ごとに基礎の定着を意識した学習を行う。 ○人名や歴史的事項を言葉だけで理解せず、歴史的背景と関連付けながら理解する学習を行う。説明を必要とする課題を授業で設定し、重要語句を使ってまとめる活動を行う。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○文章問題を図式化したり、課題を文章や式で説明したりする能力 ○関数の単元（1年の比例、反比例）における知識理解及び技能の習得 ○基礎基本が定着していない生徒への学習支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○できるだけ考える時間を確保し、思考力（数学的な見方・考え方の能力）を高めていくとともに、筋道を立てて考えたり、発表させたりする場面を意図的・計画的に増やし「言語活動の充実」を図る。 ○比例、反比例の復習をするとともに、日常生活における事象を多く取り上げ、具体的な2数の変化や対応の様子を調べさせながら一次関数の基礎基本の定着を図る。 ○授業内における個に応じた学習支援、学び合い学習による学習支援
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な現象を、観察実験を通して論理的な説明 ○自らの考えを、文章として表現する能力 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な現象に対し仮説を立てさせ、その仮説を検証させる指導を増やす。 ・教科書にのっている図や写真を、説明だけでなく仮説を立てさせ、実験を行わせる。 ○考察を書くときに、今まで得た知識や実験観察の結果などを比較・関連付けた的確な文章を書くよう常に指導する。また、自分の考えたことを文章化する機会を多くする。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ○単語を正しく書くこと（教室）（どういたしまして） ○3文以上の英作文（第1文に、できることが書かれている。） ○正答率度数分布の3頂点の解消 	<ul style="list-style-type: none"> ○観点別正答率では「言語や文化についての知識・理解」が区平均正答率を超えていてもかかわらず、特定の単語が書けないという事態に対処するため、単語テストを定期的に推進する。 ○3文以上の英作文についても、「2文目以降に、具体的な説明が書かれている。テーマに沿って、3文以上で書かれている。」点は十分にできているが、指示内容をよく理解せずに解答する傾向があるため類似問題に慣れるよう、演習に取り組み支援する。 ○低正答率にある頂点を解消するため、レベルに応じた課題設定を工夫し、基礎基本を徹底していく。

第八中学校 第3学年授業改善プラン

教科	区学力調査の結果等からみられる課題	授業改善の方策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の漢字を読んだり書いたりする力 ○説明文の内容の読み取り 	<p>○単元終了時や、定期考査前に定期的に確認テストを実施し、定着が不十分な漢字については定着するまで練習を繰り返し行う。</p> <p>○説明的文章については、要点をとらえ、内容を把握しながら読むという習慣を身に付けさせ、その内容を自分の体験を含め、具体的な事例に当てはめられるような発展的な学習を行う。</p>
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の諸地域における地名や地理的事象などの基礎基本の徹底 ○社会的事象への関心や学習意欲 	<p>○単元終了後にまとめの課題を設定し、繰り返し学習をすることで基礎基本の徹底をはかる。</p> <p>○身近な話題を通して学習内容を考えさせるよう工夫を行う。またICT教材を活用し、より積極的な授業参加ができるよう工夫を行う。</p>
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○事柄を数学的にとらえ、筋道をたてて検証していく力 ○円周角の性質や三平方の定理について、成り立つ理由を理解 	<p>○事柄を数学的に捉えるとき、全ての条件を考慮して検証していく姿勢をもたせる指導を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒によるいくつかの案を比べることにより、より深く数学的に考察していく姿勢をもたせる。 ・案を導くためにポイントになる点を的確に紹介していく。 <p>○図形の分野では、その性質を用いて答えを求めることが比較的できるが、性質が成り立つ理由を数学的に考えていくことが苦手な傾向があるため、穴埋め形式などを利用した問いかけを多くしながら説明の筋道を理解させる。</p>
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○理科の重要用語の定着 ○身近な事象や生活と学習内容を関連づけて考える力 	<p>○理科の重要用語の定着のために、定期考査とは別に定期的に小テストを行う</p> <p>○学習内容が、身の回りの事象や生活とどう関わっているかを考えさせ、それを文章で表す学習を多くする。</p>
英語	○まとめた内容で説明する文を書き表す力	<p>○類似問題に慣れることができるよう、繰り返し演習を行う。</p> <p>既習の文法事項の定着はある程度できているがさらに基礎基本を徹底させ、場面に応じてさまざまな単語・熟語・文法を運用する力を演習の中で身に付けさせる。</p>